

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
 毎月1回1日発行  
 定価1部15円  
 印刷所 田辺印刷株式会社  
 上田市原町 TEL1492

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
 発行所 社団法人千曲会  
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
 振替長野6243・東京43341  
 電話上田1215(代表)1218(直通)

## きいろい講義用ノート

信州大学繊維部学長 小 泉 清 明

学生新聞や学生の集まりでよくとりあげられる問題だ。昔の中学校にはよくかん色詰紙の先生がよくいたが授業はうまくいった。手垢とチョークでよごれたきいろいノート、とじ目さえ切れている。大学の講義はこれでよいのか。この問題はそれ自体のみでなく実に大学の本質にまでさかのぼる問題を包蔵している。

まづごく常識的に問題をとりあげることから初めよう。

概念としては講義はアップツデーの問題をとりあげて常に改訂されることが望ましい。だが新制大学での講義はたいてい入門的な範囲を出ない。初歩から始まって内容はひと通りおおざっぱにもうらしたのものになる。旧制大学や新制大学でも大学院では、基礎ができてからアドバンスド・コースの講義が理解できる。だから内容にも教授の意図する通りの新しいものも深いものも盛ることができる。

第二の問題は大学教授(以下助教授講師をも含めてこう呼ぶ)は教授と研究の二つの任務を背負わされていることだ。講義を良心的にやろうと思うと研究に注ぐ情熱がそがれる。研究に没頭すると講義に対する余裕がなくなる。昔の大学では一時間の講義に少くも十時間の準備が必要であった。それならばテキストを使ったらどうかこれも先生からすれば問題がある学科によっては「本」ですむものもあるが、大学の先生には講義科目について自分なりに一つの学問体系をもっているのだ。この体系は本の内容とは必ずしもびつたりしない。取扱う項目にも精粗があるし、学生の種類や時間数にも左右される。

こういうわけで、昔から多くの非難を浴びながらも、大学教授は講義用ノートを手離すことができないのである。

先生の立場からは以上のようなことが云える。かといって黄色いノートが許されるべきものでは断じてない。学問や技術の進歩は非常に急速でいささかの遅怠もない。いかに公式的な講義でも十年一日ということはない。これが先生の怠慢によるものとしたらもっての外といわざるをえない。自己に忠実でない先生に限って試験もいい加減にすませ、成績も「優」ばかりつける。学究型の先生が研究に多忙のためにノートの整備ができないのはまだ許せる。まじめな研究に裏づけられた講義には独創性と批判が十分くみとれるし、合間にとび出す雑談も非常にサジエタイプであるからだ。内容がよく整理され、新しい文献も詳しく紹介されている講義にオリジナリティが少しも感ぜられない場合もある。これはクリティシズムのみ過剰になって、研究そのものにみるべきものない教授の講義である。

よい意味で大学教授には二つの型がある。「学究型」と「教師型」後者は研究の業績はもたないが、講義は良心的で学生の面倒もよくみる。前者は研究に没頭してはつきりいえば講義も学生の世話も面倒くさい方である。昔の大学では学究型は高く評価され、教師型は専門学校に多かった。

こういう関係は大学教授をさらに三つの型に分けることによっていっそうはつきりする。某東大教授は大学教授を三つ

のタイプに分けた(35・2・29, 日本経済新聞, 大学の素顔による)。「要領型」「学究型」「無能型」。要領型は俸給などはあてにしないで原稿料かせぎや官庁民間の仕事求めてとび回るタイプ。研究費も多くとってくるが、中にはどこが勤務場所かわからない人や、世間では名前が実力以上に評価されている人もある。研究の能力はまるきりないが会議などでよく発言する。それがまた常識的に筋が通る。これが買われて大学のたいていの委員会などに顔を出す。一部では有力教授とかボス教授などと呼ばれる。こういう中に要領型が多いことも事実だ。これと正反対なのが学究型。コツコツと研究に精進して学会では名声が高いが、社交も下手だし、大学の空気にはあきたらないで多くの場合逃避的である。逃避はよくないが、こういうのがほんとうの大学教授の姿であろう。無能型は大学教授と呼ぶにはあまりにもお粗末で、たんに大学教授の椅子をエンジョイしているだけの人だ。

この三つの型に「教師型」を加えると先生の講義のよしあしの関係がよくわかるというものだ。

ここでわれわれは目を最近の大学の變貌に向けてみよう。

大学では教授は学生の指導とともに自らも学問の研究をすることが建て前になっている。少くも大学は学問の最高水準における教育と研究の機関であるというのが、昔から大学にくだされた定義であるし、理念はいまもって変わっていない。教育と研究があたかも車の両輪のように大学を特色づけることは、日本の大学ばかりでなく外国の大学でも同じである。

しかし、戦後とくに最近の大学の事情はどうか。何人も否めない事実として最近の大学は高等教育機関としての性格をいちじるしく強めている。すこしオーバーな言い方をすれば、少くとも理工系大学は高等技術員養成所に化した。数年前日経連は大学に産業の要求する専門の技術者の養成を強硬に要請した。文部大臣は文科系大学は圧縮しても国立では理工系を大幅に拡充すべきではないかと主張した。それ以後理工系大学にはブームが訪れ、学科が次々と増設された。この要請はあたかも女性が着物を欲しがると軌を一にした大学関係者の「大学のスケールを大きくしたい」という本能的な欲求を満足させるものであった。このようなすうせいは戦前の大学がひそかにというよりはむしろおおびらに誇っていた独自の存在理由—真理の探究—へのプライドを一步後退させる結果となった。いい意味にせよわるい意味にせよ象牙の塔の一部はくづれた。これは戦後社会一般の民主化に影響された大学の社会化の一つのあらわれともみられ、また大学が社会の中の一つの制度である以上止むをえない仕儀ではあるが見方によっては大学の転落ともみられる。

教育偏重の結果として、大学がもっとも重大使命と自負していた没価値的な真理探究の純粋理念は不識の間に一步後退して、研究はより応用的になり、より産業に直結する方向に指向された。「産学協同」はこのために都合のよい題目であった。しかし研究者の一部はこの傾向にやっきとなって反撥している。近頃大学に附置研究所や研究施設のふえる傾向は

研究設備の巨大化や経費の膨大化に対する一つの対策でもあろうが、研究者が最後の牙城として研究を死守する意向に出たとは解せないだろうか。

次に大学の学生の最近の動向はどうか。

大学を人材養成機関としてしかみない産業界の要望は、一歩ゆずって当然だとしても、これは学生に対しても大きな変化をもたらした。学生にとっては今や大学は独自の存在理由はもたず、人生における一つの路宿にすぎない。端的にいえば一流会社に入るための一つの踏台である。試験は単位をとるための機械的な制度であるし試験に落ちることは、学習が意の如くゆかなかつたことではなく社会へのエスカレーターを踏み外したことを意味する。昔の学生には理想主義やロマンティズムがあった。極端にいうならば今の学生にあるものは、一般社会人と同じく、週刊誌やテレビのマスコミの世界だけだ。旧制の高校生にみた世俗を超越する風習はなくなり学生は社会人からみずからを区別するよりは進んで社会の中に入ってゆこうとする。こういう傾向が学生の現実主義、個人主義に結びつくと、学生のスケールはいっそう小さくなる。なによりも気がかりのことは学生の無力化と灰色主義であろう。最近の世相に目標を失いがちで、真理への探究に熱意を示さないと同様に学生みづからの運動にも傍観的立場をとっている。

日本の大学は理念と組織においてドイツの大学のまねたものといわれる。大学の武器は精神と真理であるという理念をはっきり基礎づけたのは1810年にできたベルリン大学で、時の文部大臣フンボルト(1767~1835)はファイヒテ、シェリング、シュライエルマツヘルらの力を借りて大学の基礎を確立させた。これは長く日本の大学人の頭の中にしみこんできた。大学の課題は学問の研究であり、真理への目をひらかせることによって学生の人格形成に奉仕することが目的であり研究と教授は分離することのできない統一された一体である。大学では何よりも自ら知ること熱意を抱かせるべきで、デンケンつまり行動を導く星はけって専門末梢的な技術知識の授受のみを目的としたものではない。学問を創造し学問を生産することが大学の目的であるとすれば研究と教授はこんぜん一体をなさねばならぬことは自明の理であろう。教授は与える

ものでもなく、学生は受けとるものでもなく、両者とも研究者であり創造者である。教授が知識と見聞において一日の長のあることはうたがいがいないが、学生の方はより新鮮であるしとられることがより少ないし、何よりも活力に充ちている。両者は共通の課題に対してミットアルバイターであるし大学機能の発揮のための車の両輪的な存在である。だから昔の師範学校などによくいた老練な教育者は必ずしも大学教授の適格者とはいえない。少くも昔の大学にはこのような教育理念があった。教授は教えなかつた。サジェスションを与えるだけだ。ともに研究した。卒論の研究ではこれがもっとも如実に示された。今の大学では教授は教えることにばかり熱中している。何故そんなに教えたのか。教えなければいけないのかかわるとてもいうのか。少くとも大学という名前の学府は教えることを建て前とした専門学校とはゆき方が根本的に違う。それが如実にあらわれていなければ、大学への昇格は看板の塗りかえ以外のなものでもない。今の大学では必修科目がむやみに多い。教えたがるからだ。学生が真理への目をひらくことに人格を形式することに理想を抱いているとしたら、なんといまわしい小細工な枠であろう。大学の課題を達成するために「考える人」「研究する人」としての人格的交渉あるいはとけあいが必要だとしたら技術末梢のカリキュラムの枠などはおよそこつけいなものではないか。将来社会の負担に答えるために創造と工夫の能力を身につけさせるとしたら、学問的体系を乱さない限り、もっと自由に学習させる制度こそ必要であろう。

大学の盛衰が、教授の人格が、学生の動向どう変ろうとも大学の理念が今も昔も不動であるとしたら、きいろになった講義用ノートの問題などはそもそも末梢的で、根本的に考えてみなければならぬ問題に席をゆずるべきであろう。

(37・10・15記)

後 記

この一文は信州大学繊維学部新聞第20号(37.10.25発行)に寄稿したのだが、この頃の大学、教授、学生のありようの一端を卒業生の方々に知ってもらうためにそのまま転載した。

上田繊維科学振興会賞候補者推薦ご依頼

母校50周年記念事業として発足の上田繊維科学振興会本年度事業繊維科学振興会賞候補者を下記により募集いたします奮って候補者をご推薦下さい。

昭和37年11月1日

上田繊維科学振興会理事長  
柳 沢 延 房

記

推薦期限11月15日まで千曲会理事長あて提出すること。詳細は支会長、支会事務所に連絡下さい。

上田繊維科学振興会研究表彰規定(抜萃)

(2)本会に繊維科学振興会賞を設ける。

(3)繊維科学振興会賞は、繊維科学およびこれに関連した科学の分野において顕著な功績のあったものに授与する。

(4)前項の業績は発表された論文著書または発明考案とする

(6)受賞決定者には賞状および賞金を贈る。

(7)受賞候補者は繊維学部長または千曲会理事長より推薦されたものとする。

- (8)受賞者の選考は受賞選考委員会において行なう。
- (2)授賞は千曲会総会(11月23日)において行なう。(推薦書様式)

昭和37年度上田繊維科学振興会賞推薦書

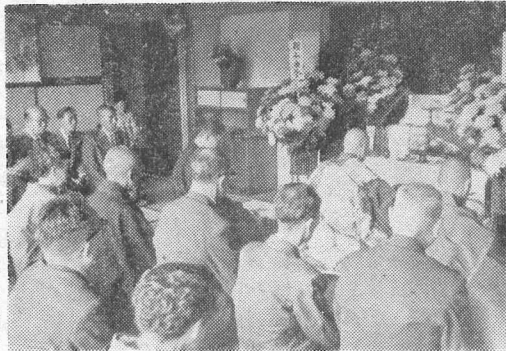
候補者氏名	(勤務職名等も)
推薦者氏名	(支会名も)
業績と推薦理由(候補者の略歴参考論文概要等足りなければ別紙に記入して下さい)	

## 「針塚長太郎先生—その伝記と追想記」の献本式に出席して

林 貞 三

「針塚長太郎先生—その伝記と追想記」は委員殊に編集委員と連絡委員の並々ならぬ努力によって見事に完成したので、これを先生の御霊前に献上すべく針塚家の御都合をおうかがいしたところ、10月7日にしていただきたいとのことであった。当日は、恰度先生と奥様の墓碑の完成を記念して、先生の13年忌、奥様の21年忌の法要が行われることになっていた。この献本式の出席者は、上田から私と松尾卓見君、群馬代表岸勝弥君、それに編集委員鈴木教吾君が東京から参加された。10月7日上田発8時半の急行で渋川に向かったが、別所の半田孝海師が伴僧1名をつれて同行された。孝海師は墓碑銘の揮毫者であり、また今日の法要の任を帯びておられた。松尾君は、出来上った追想録中の都丸ふじ枝さんの名文「母が死んだ時、父は私に『俺が死んだ時は、山登りの支度をさせ、坊さんは半田さん一人だけ呼んでくれ』と一言ぽっりとやった」という記事を車中で示したが、今回は孝海師に一切をお願いしたことは、針塚先生も一入およろこびのことと思われる。

正午少し前に渋川のお宅に到着した。鈴木君、岸君はすでに到着していた。墓碑はお宅から二町程離れた墓地に立派に建立されてあった。表に先生御夫妻の御戒名——高徳院殿芳誉長安大居士、慈照院殿円成妙信大大姉——が並んで刻まれ、横に大僧正半田孝海書、針塚正樹建之とある。強い秋の日ざしの中に線香の煙がたなびき、孝海師の厳肅な入魂の読経がつづき、焼香が終ったのは1時であった。御一同はお宅に引きかえし、座敷の仏壇の前で法要が同じく導師半田孝海師の読経によりいともおごそかに営まれた。その霊前には千曲会から贈られた大きな生花が一對飾られてあった(写真参照)。参列の近親者は、施主針塚正樹氏夫妻先生の末弟針塚卯八翁夫妻をはじめ、奥さん御弟妹の伊東かう様・山本誠一氏、間庭梅子さん、中里輝子さん、都丸ふじ枝さん、橋本富寿氏同夫人百合子さん、野口平吉氏(美津枝夫人は病氣療養中)、お孫さん達——立派な青年から小さな曾孫さんまで——それに松岡重三郎氏ら親類縁者総勢50余人で、仲々の盛儀であった。読経の終るのを待って、私は追想録刊行会を代表し霊前に進み、献本五十部の目録を



読み上げて御焼香した。針塚正樹氏の御丁重な御挨拶があった。儀式はすべて終了したのである。その後は、参列者一同仏前での宴席に招かれたが、四方山の話は控え目で、追想録発刊についての感謝の気持ちが親族の方々から次々と示され私共としては誠に面目をほどこしたような次第であった。そこでは先生のお好物の手打そばの御馳走にもあずかり感慨深いものがあった。

先生のお宅は軽石ブロックの塀で新装され、門も新しく頑丈に出来ていた。ロータリーたるべく先生の手で植えられたヒマラヤンダーも今や太く繁り、喜寿の祝のさいは広々とした庭だったが、数々の植木や草花がところ狭しと植えられていた。先生の好物中の好物だった柿の木も3、4本黄金色の実を沢山つけていた。追想録所載の先生の和歌「みのりなば誰か食ふらめ我れは唯つぎ木の柿のつく(活着)を見んとて」が思い出される。梅子さん、輝子さんは年齢的にさもありなむと思われたが、百合子さんに至っては、赤紫のリボンを髪につけた嫁入前のお嬢さんの時からおめにかからなかったためでもあろうか、「百合子です」と挨拶されてとまどってしまった。野口さんが御一緒に生活されていたころお連れになった由の甲州犬が、16、7才と覚しき老体をよたよたさせていた。先生を知っているかどうか。応接間に入ると故中沢忠君(糸1)を思い出させる松代焼の大きなこね鉢、故和田仙太郎先生に關係ありそうな妙なる床石、それに石井鶴三氏のきじ(雉)の画、さては座敷の象山の掛軸など見覚えのある品ばかりで、当時を偲び去るあたわさる気持であった。

3時半頃、後髪を引かれるような気持で辞去した。信越線の中中は混んでいたが、上田の宏正会員(東京大会に出席しての帰り)の方々により半田先生と私は座席を与えられ、老人の余徳をしみじみ味った。なお鈴木君は岸君と前橋に出て追想録編纂にお世話になった群馬千曲会の方々へ電話でなりと挨拶したいとのことであった。

長いこと心にかかっていた先生御霊前への献本がこうして滞りなくすんだ。

## 第23回千曲会定期総会開催のお知らせ

千曲会定期総会、理事会、監事会を次の要領で開催いたします。この総会は昭和36年度収支決算、昭和38年度収支予算案を始め次の議題について審議し本会の向上発展を日ざす総会であります。代議員各位は万障お繰り合せご出席下さいますようご通知申し上げます。

なお支会においては出席代議員の氏名および支会提出議案を来る11月15日まで本会にご連絡下さるようお願いいたします。一般会員も多数ご出席の程お待ちいたします。

## 1. 定期総会

(1)日時: 11月23日(金) 勤労感謝の日、午前10時、(2)会場、母校会議室、(3)議題(本部提案) (1)昭和36年度収支決算について、(2)昭和38年度収支予算について、(3)会報および会員名簿発行について、(4)支会の編成について、(5)母校火災復興資金募集について、(6)上田繊維科学振興会事業について

(7)役員改選について、(8)賛助員の推挙について、(9)其の他報告事項

(1)千曲会厚生施設の進行状況について、(2)針塚先生伝記とその追想記刊行完成について、(3)学部改新事業について、(4)会費納入について

## 2. 理事会

(1)日時 11月23日 午前9時、

(2)会場 千曲会館

(3)議題 総会に付議する事項(10月27日開催の理事会において決定した議案以外の提出議題)

## 3. 監事会

(1)日時 11月22日 午後1時、(2)会場 千曲会館

(3)本会 業務執行及び財産状況監査

社団法人千曲会理事長

荻原清治

# さ ろ ん

## 信州大学総合美術展開く

信州大学学生美術連盟が1昨年設立されて以来、県下に散在した各学部の美術部員が熱意と努力を重ね我が繊維学部が当番主催で信州大学総合美術展を10月11日から14日まで上田市体育館で催した。

出品作品は絵画69点、写真12点、彫刻5点、デザイン11点、および賛助優秀出品があった。色彩は絵画や工芸などの上では、もちろん離すことは出来ないがしかしながら私達は日常生活の美をみのがしがちです。幸い美術部員は信州大学学生総合美術連盟、又昨年設立した関東甲信越国立大学連合文化会にも加盟しています。このような発表の機会で、その美を求める精神を養うことが出来ます。「完全なる何物かを創造しようとする努力ほど心霊を純潔にさせるものはない」と言われている。純潔に保たれた心で各学生間の親睦と結びつきを強くし、かつこれが地方文化に幾分なりとも寄与したいと思っている。

各方面の温い御支援をお願いします。  
美術部 中村二郎 (繊維4年)

## 糸16回クラス会

去る10月14日(日)、秋晴れの群馬は伊香保温泉木暮旅館で、糸16回卒業のクラス会が開かれた。糸16回と云えば昭和4年卒業であるから、学窓を出て34年になるが、このクラスの面々は比較的多方面に元気で活躍している関係もあってか既にクラス会を重ねること数回におよんでいる。今回のものは時期は幾分ずれたが、群馬蚕糸の杉山社長の新任のお祝を含めて発起され、群馬に在者が世話役に催されたものである。

このたび馳せ参じた者は群馬の黒沢、庭野に、東京方面からは馬場、富岡、吉井、西田の社長、所長、専務、常務と社会的にも羨望の的に見えるものばかりに

長野からは母校にいる中島が恩師林先生をはるばるお連れして合流した。

途中群馬蚕糸の原市工場を視察、杉山の社長振りを一寸拝見の上会場へ向った。会後は午後5時から杉山社長の音頭で寄せ書、中央に69才とも思えないかくしゃくたる林先生の「致中和」の達筆を置きあとは思い思いの署名してから宴会に入った。初秋の赤城、榛名の連峰を背景に美人のお酌で、気のゆるし合った仲間の酒宴はまたとなく楽しいものである。宴たけなわになるにつれて、働き盛りであり、年ばいから云つてもいろいろの経験



をもち、世界各国を訪れている等視野の広い者が多いだけに漫談、奇談にかくし芸と次ぎ次ぎに続いて、とどまるところが起承転結なる理窟に叶つて、そのまま歌になりそうなものもあり、また晴耕雨読は年寄の生き方でなく、長命の秘訣は早起きと規則正しい生活に限るので早起会に入会し、爾来毎朝4時起床を励行している等壮者をしのぐ老人哲学の発表もあり、儿談話の中にも蘊蓄に富んだものが見受けられた。それにしても糸挽き(製糸プロパー)はクラス中、現在5名だけで、卒業当時を思うとき、感無量にならざるを得ないところもあるが、しかしそれぞれ各界の重要ポストにおさまつているところを見て、非常に頼もしく感ぜられた。宴は終始面白おかしく続いて、最後に次回は諏訪地区で開くことを約し、本当に楽しかったと思ひながら翌朝別れ

をつけ、勇躍各自の職場へ帰つた(中島) 小沢丘先生(旧職員)国体便りに感謝

小沢丘先生(剣道九段)は10月21日から岡山県において開催の第17回国民体育大会秋期大会剣道部最高役員としてご出席、会場の岡山県高瀬市に出張中であつたが旅館より、荻原理事長あて針塚先生伝記とその追想記は立派に出来上つたと賛辞を寄せられ針塚先生を偲び一気に拝読された旨お便りがあつた。又母校火災復興資金に応募下され完納いただいた。ご繁務の中を母校復興に寄せられたことを心から感謝申し上げます。

## 伊藤力三氏来会

宮城県伊具農蚕高等学校伊藤力三校長(蚕17)、尾崎宗敏氏(蚕18)、竹内一誠氏(学蚕5)は学生会議があり生徒引率かたがた学部立寄られた。本会荻原理事長、山口、田口、小林尚一の各先生と懇談の一時をもち、学部が時代に即応した発展途上にある状況を見られてうれしく感激された。

なお尾崎氏は奥さんも一緒に懐しい信濃路の秋色をめで、針塚先生の伝記とその追想記を購入された。

## 三浦正夫氏の受賞

愛知県東春井郡旭町体育協会会長三浦正夫氏(糸31)(旧姓大橋)は10月21日岡山県で開催の国民体育秋季大会、開会式当日社会体育優良団体として名誉ある文部大臣賞を受賞されることに決定した

## 東信千曲教育研究会幹事会開催

東信教育研究会幹事会は10月6日千曲会館において開催された。出席者は阿部丈夫会長、竹内善吾、中島角太郎、高橋裕の各役員であった。

## 年賀広告募集

恒例の新年号年賀広告を募集いたします。ふるってお申込下さい。  
締切 12月15日 料金 1コマ 100円  
申込 信州大学繊維学部内千曲会



# オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

## 株式会社 増島製針所

TEL 塩田 650

皆様のご相談相手

# 北十二銀行

# 母 校 ニ ュ ー ス

## 学 内 人 事

河村恒雄氏岐阜高校に栄転

小泉研究室に勤務の河村恒雄氏はこのたび岐阜高等学校教諭に栄転された。

飯島荘資氏東京セロファン紙株式会社に栄転

岡田研究室に勤務の飯島荘資氏はこのたび東京セロファン紙株式会社に栄転された。

## 学 部 祭 盛 大 に 催 さ る

恒例の学部祭が10月25日から10月29日まで次の行事日程で盛大に行われた。

今年に従来学部祭の主な会場であった旧校舎の火災焼失による不便や、目下増築中の繊維機械学科研究室の工事、紡織工学科実習工場の移改築等で混雑しているが学部改新事業が着実に進行し学部発展途上にある学内を開放し学生の自治活動の成果を結集し発表するよい機会を学部あげて学部祭が盛大に行はれた。

学内開放の実演展示の主なものは①電子顕微鏡の公開を始め、②繊維伝導度が繊維の太さ、長さ、各種混紡と伝導との関係、糸むらの測定。③ストレンゲージによるパルーニングの張力測定。④各種織物メリヤス製品、メリヤス編機に関する統計資料展示。⑤織物のしわの話、不思議な実験WHY現象の数々、⑥機械の機構についての展示と解説。⑦電気植毛装置の実演。⑧高分子フィルム摩擦測定装置。⑨金属顕微鏡による金属組織。⑩微量融点測定機実演。⑪air micrometerの使い方。⑫卓上繰糸機の実演等で来観者に好評を得た。

## 学 部 祭 日 程

- 10月25日 前夜祭(仮装行列・その他)
- 10月26日 駅伝大会(小諸-上田)・男性・女性コーラス(講堂)・レコードコンサート(講堂)・祭祭前夜祭(修己寮)
- 10月27日 映画会(講堂)・弁論大会(〃)・ダンスパーティー(〃)・弓道公開(グラウンド)・学内開放(化学教室)・文化局発表(各教室)・祭祭(修己寮)
- 10月28日 空手演武会(道場)・謡曲(講堂)・

講演会(〃)・軽音楽(〃)・演劇(〃)学内開放(化学教室)・文化局発表(各教室)・祭祭(修己寮)

10月29日

土屋敦博先生講演(講堂)・スキー映画(〃)

# 本 会 記 事

## 動 静 部 委 員 会 開 催

10月18日、動静部理事坂口育三、石川博、押金健吉、小笠原真次、美斉津利正、滝沢達夫の各委員が出席し、小泉学部長の発案について検討し名簿発行に必要な準備費を38年度予算に経上を理事会に要望することに決定した。

## 学 部 改 新 期 成 同 盟 会 理 事 会 開 催

10月1日改新期成同盟会が開催された。出席者は柳沢健太郎副会長、小泉学部長、杉田憲一、石坂虎治郎、香掛久雄、安井健一、宮城博、笠原正巳、呉祐吉、野口新太郎、会田源作、中村六男、山口定次郎の各理事であった。木内四郎会長(参議院議員)は用務のため欠席の旨電報があった。小泉学部長(常務理事)より募金状況の経過報告、業務監査報告があり、つづいて次の事項を協議した。

### ① 高 分 子 工 業 研 究 所 建 設 に つ い て

217坪の研究所建設が本決りとなり大学本部に寄附採納の手続きをとり近く工事着工に決定した。

### ② 職 員 宿 舎 建 設 に つ い て

学科増設に伴って職員、学生の宿舍の充足が困難であるが来年4月末竣工するよう7戸の職員宿舎を建設することに決定した。

## 上 田 繊 維 科 学 振 興 会 理 事 会 開 催

10月16日上田繊維科学振興会理事会は学部長室において開催、小泉学部長、柳沢振興会理事長、北条、萩原、呉、中村田口、香山、関、小泉所、竹内善吾の各役員が出席し、①香山理事より過般長野県庁に本会組織の法人化について打合せした経過報告あり、つづいて寄付行為案を検討した。この結果を更に県に打合せ

して公益法人の許可申請をする方針を決定した。

②学会講演会補助について本年は学部においての開催は目下予定がないので非常勤講師の旅費等に補助することに決定。

③繊維科学振興会賞の受賞候補者の推薦依頼広告を千曲会報に掲載することを決定した。

## 学 内 評 議 員 会 開 催

10月25日学内評議員会を開催し、第23回定期総会本会提出議題について審議した。出席者は萩原理事長、山口、町田、中島、坂口、松尾、北条各理事、関、石川、遠藤、土屋、田中一行、小山長雄の各評議員であった。

## 理 事 会 開 催

10月27日千曲会館において理事会を開催した。出席者は小泉名誉会長、萩原理事長、倉沢美徳、野口新太郎の各顧問、母袋忠右衛門副理事長、宮城博、井沢喜三、香山清和、山口定次郎、中島超、町田博、田口亮平、北条舒正、坂口育三、白井美明、松尾卓見、小林尚一の各理事で、来る11月23日(勤労感謝の日)に行なわれる本会定期総会に付議する議題について審議した。萩原理事長議長として議事を進めた。中島理事より会務報告があり、小泉名誉会長は本日学部祭の行事である弁論大会審査のため途中から見え学部改新事業について逐一説明された。つづいて各案について審議結果、本部提出議題は次のとおり決定した。

- 1, 昭和36年度収支決算について
- 2, 昭和37年度収支予算について
- 3, 会報および会員名簿発行について
- 4, 支会の編成について
- 5, 母校火災復興資金募集について
- 6, 上田繊維科学振興会事業について
- 7, 役員改選について
- 8, 賛助員の推挙について
- 9, その他

## 報 告 事 項

- 1, 千曲会厚生施設の進行状況について
- 2, 針塚先生伝記とその追想記刊行完成について
- 3, 学部改新事業について
- 4, 会費納入について

日本工業規格表示許可工場

## 日 本 石 綿 紡 織 株 式 会 社

本 社 長 野 市 三 輪 本 郷  
T E L (2)6275(3)0093

テレビとステレオ

## 岩 城 屋 ラ ジ オ 店

上 田 市 横 町 T E L 9 8 1

### 火災復興資金募集

母校火災復興資金募集については会員各位の多大なご協力によって10月末現在申込人員951名 申込額2,338,700円となり募金目標額に対し41%の現況であります。宮城支会は既に134%, 京滋支会100%と募金目標額を突破したした支会を始め三重, 神奈川, 徳島, 栃木, 安筑, 三丹, 兵庫, 愛知, 石川, 茨城, 鹿児島各支会も60%に達し, 全般に逐次上昇いたしております。会員各位の母校愛溢れる熱意に対し深く感謝申し上げます。

何卒募金要項ご賛同の上目標額達成に格別のご協力を賜われますようお願い申し上げます。

### 募 金 要 項

募 金 目 標 額 5,800,000円  
 復興資金として  
 母校へ提供する金額 5,000,000円  
 拠 出 額 1口 金 1,000円 1口以上  
 申 込 期 限 昭和37年12月末

### 千曲会員各位

母校火災復興資金募集実行委員長

巢 山 喜 吉

社団法人千曲会理事長

萩 原 清 治

### 母校火災復興資金拠出申込者氏名 (○印完納)

- 福 島 支 会 3,000円 ○多勢亀次(糸12) ○多勢正一(学糸6)  
 2,000円 ○角替越夫(糸15)
- 群 馬 支 会 2,000円 ○岸 勝弥(蚕3)
- 群 玉 支 会 2,000円 ○斎藤格次(蚕3)
- 茨 城 支 会 1,000円 ○矢島懸三(学糸8)
- 越 佐 支 会 1,000円 ○広井俊一(蚕5)
- 東 京 支 会 1,000円 ○笠井忠光(学糸2) 志摩哲夫(糸31) 浜正和(糸36) 鈴木行徳(学糸1) 中島美知子(教8) ○井原妙子(学糸9)
- 富 山 支 会 3,000円 ○中村英人(紡19)
- 上 小 支 会 20,000円 ○笠原正巳(糸15)  
 3,000円 若林寅雄(糸10) 細川俊雄(蚕18)  
 2,000円 矢島隆之助(糸17) 供野邦敏(化7) 高橋邦夫(学糸6) 窪田作水(化2) ○清水英一(糸22)  
 1,000円 ○前田晴正(蚕29) ○富原豊(蚕32)  
 ○宮林昭樹(蚕37) 小林正(学糸2) 甲田和利(学糸2) 水沢正(学化2) 柳沢市登(学糸1) 松本進吉(学糸7) 村井三郎(化3) 石井貞(農5) 玉井真固(学糸7) 佐藤和夫(化6) 伊倉健二(糸35) 柳原卓也(蚕別1) 高木精一(蚕36) 城田茂穂(蚕専) 小林学(蚕別6)
- 北 信 支 会 5,000円 宮城博(蚕11)  
 3,000円 北条五郎右衛門(蚕17) 坂口正信(蚕18)
- 更 埴 支 会 1,000円 ○山岸啓男(紡24)
- 安 筑 支 会 3,000円 山崎勝巳(蚕20)  
 2,000円 菊地六郎(蚕27)  
 1,000円 栗幅秀一郎(学糸2)

### 諏訪支会

- 30,000円 林清市(糸19)  
 5,000円 ○小口英一(糸12)  
 1,000円 ○山田次男(蚕26)
- 静 岡 支 会 2,000円 ○浅川茂樹(蚕22)
- 岐 阜 支 会 2,000円 ○平越達(学紡1)
- 三 重 支 会 5,000円 鈴木正悟(蚕21)  
 2,000円 坂口孝侯(蚕17) 大塚浩(紡17) 鈴木高行(蚕24)
- 愛 知 支 会 3,000円 ○上林多兵衛(蚕7) ○鈴木竹男(紡26) ○小林進(糸20) ○秋山武一郎(糸19) ○鈴木 薫(学糸7)  
 2,000円 ○吉野和夫(紡26) ○三輪貞徳(蚕13)  
 1,000円 ○北沢諭(学化3) ○池田勉(学糸6) ○金子新一郎(糸17) ○花岡万寿夫(蚕37) ○山浦幸二(紡29) ○鳥羽久雄(学糸1) ○増田禎三(学糸7)

### 近畿支会

- 5,000円 ○高馬一郎(糸17)
- 2,000円 ○横沢 平(糸21)
- 1,000円 ○山本善一郎(学糸8)
- 旧 職 員 2,000円 ○小川丘(東京) ○奥正巳(京滋)

### 三丹支会

- 5,000円 林 秀門(糸19)
- 2,000円 太田良信(糸17) 岩崎俊男(化2)
- 1,000円 中村康三(学糸10)

### 山陽支会

- 1,000円 ○浜田和也(学化10)
- 徳 島 支 会 3,000円 ○寺島 昌(蚕31) ○宇根山哲夫(糸17)  
 2,000円 ○矢島卓也(学糸1)  
 1,000円 ○米田繁一(紡26) ○室岡定雄(蚕別2)

### 北九州支会

- 2,000円 福島綱次郎(糸12)
- 小 計 84人 211,000円
- 果 計 951人 2,338,700円

### 三浦先生退職記念募金について

このことについては本紙の8, 10月号に登載以来大方各位から多大のご協力を頂き有難くお礼申し上げます。しかし二回登載しただけです, その後多くの方々から忘れていたが今からでも間に合うか……等のご照会を頂きまますので, 次に要点だけ記載しますからご失念のお方は至急お申し込み願います。

期 限 11月30日  
 金 額 1口 300円 口数はご随意  
 送り先 信州大学繊維学部 社団法人千曲会内  
 三浦先生退職記念会

### 遂に完成乞購入申込

### 針塚長太郎先生—その伝記と追想記

刷り300頁 追想記100余名執筆 実費頒価 1部 1000円  
 「針塚長太郎先生—その伝記と追想記」遂に完成しました。これは, ひとり一世の師表針塚先生を伝えるのみでなく, 母校のほころべき歴史を伝えるものです。潑刺たる息吹が一巻をおおっています。母校が新しい時代を迎えようとするとき, とくに若い同窓生の愛読をおすすめいたします。即刻購入申し込み下さい。なお同時に送金をお願いします。(千曲会振替口座東京43341番を御利用下さい)  
 信州大学繊維学部千曲会館内  
 針塚先生追想録刊行委員会

### 会 員 動 静

- 合田 信一 糸 11 埼 玉 (株)東京国際カントリー倶楽部 専務取締役(東京都町田市下小山田町電話町田(04274)5876-77 (住)浦和市高砂町5ノ17)
- 竹内 孝三 蚕 14 東 京 農林省蚕糸試験場(住)東京都調布市金子町1861
- 河村 恒雄 学蚕7 岐 阜 岐阜高等学校(岐阜市)岐阜県養老郡養老町橋爪1177
- 久保田重良 学蚕5 東 京 勤前の通り(住)東京都杉並区阿佐ヶ谷4の350 五十嵐方勤前の通り(住)大宮市日進町3ノ75ノ4
- 山口 邦友 学蚕2 埼 玉 熊谷市上石原1076
- 徳嵩 保 学蚕4 埼 玉 岩手県蚕業試験場一戸分場
- 高木 武人 学蚕4 北 奥 (岩手県二戸郡一戸町)
- 小林 任治 糸 36 東 京 昭栄製糸(株)(東京都駿河台3ノ1ノ2)
- 堀 久三郎 糸 13 東 京 三愛化学研究所(群馬県新町)(住)東京都北多摩郡久留米町落合422
- 大久保紀元 学蚕3 北 信 長野県蚕業試験場(長野市岡田町)(旧姓清水)
- 菊地 六郎 蚕 27 安 筑 蚕消毒普及会(松本市逢初町)
- 小林 啓次 学蚕5 東 京 東海大学工業化学研究室
- 倉橋 琢而 糸 10 兵 庫 勤前ノ通り(住)大阪府三島郡三島町味舌下1627
- 牧野 春雄 糸 10 徳 島 神崎製紙株式会社(住)徳島県阿南市福村町北筋83

- 宇根山哲夫 糸 17 徳 島 シェル石油小松島給油所 山栄石油有限会社小松島市中田町字原の下27(電)小松島1189 (住)徳島市庄町4ノ28
- 中村治三郎 紡 10 北佐久 アサマモーターロッヂ 長野県軽井沢町追分字一里塚389 (電)軽井沢5826
- 久保田不二夫 蚕23 山 梨 山梨県北巨摩県事務所蚕糸課長(韮崎市)(住)東八代郡石和町下平井 電話57
- 北条 幸男 学紡9 愛 知 三菱商事(株)名古屋支社繊維毛麻部毛糸課(名古屋市中区広小路2丁目6)
- 小湊 潔 糸 4 近 畿 理研化学工業(株)社長(京都市伏見区深草町向川原町48)
- 横沢 平 糸 21 近 畿 和歌山県工業試験場(和歌山市宇須139) (住)兵庫県西ノ宮市甲子園四番町91番地
- 田村 昌三 糸別3 安 筑 南安曇地方事務所蚕糸課(豊科町)
- 相田 隆義 学紡10 近 畿 レナウン工業KK大阪布帛工場(大阪市吹田下山田1200) 大阪市都島区内代町2の41

#### 編 集 室 よ り

菊薫る文化の月となり、各学会の総会や研究発表会が各地で行はれる。本会第23回通常総会は11月23日、勤労感謝の日学部会議室で行はれます。学部発展のため、本会向上のため、多数各位のご出席をお待ちいたします。

編集委員 小林尚一 香山清和 小山 定 小林 勝  
大屋正尚 一之瀬匡典 柳沢幸雄 白井要範

特許・実用新案・意匠・商標  
出願・訴訟・鑑定

## 浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20  
堤 第一ビル 四階  
東京(591) - 0764・0765

弁理士 浜 香 三  
弁護士 中 猪 之 助

ビニロン レイヨン



## 倉敷レイヨン株式会社

取締役社長 大原 総 一 郎


本 社 大阪市北区梅田八番地(新阪急ビル)  
東京事務所 東京都中央区日本橋通三ノ一(新日本橋ビル)

為替のご用は

はやくて たしかな  
富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金  
口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

信 州 別 所 温 泉

(上田駅下車 電車 又はバス30分)

日観連会員  
交通公社指定  
国鉄推薦

## 和 泉 屋

TEL (塩田局) 30・102

# 創刊 11月30日 化学と生物

### ◇編集委員◇

(○は編集委員長)

- 芦田 淳 (名 大)
- 有馬 啓 (東 大)
- 池田庸之助 (東 大)
- 江川 友治 (農技研)
- 古賀 正三 (東 大)
- 住木 論介 (理 研)
- 田村 三郎 (東 大)
- 中島 稔 (京 大)
- 橋本 芳郎 (東 大)
- 秦 忠夫 (京 大)
- 藤巻 正生 (東 大)
- 舟橋 三郎 (東 大)
- 松居 宗俊 (高峰研)
- 丸尾 文治 (東 大)
- 右田 伸彦 (東 大)
- 山田 浩一 (東 大)

編集 / 日本農芸化学会  
隔月刊・B5判・56類・190円

- ☆ 生物を対象とする化学の諸分野に活躍される研究者、技術者学生の方に、最新の知識、学説情報を提供するために企画されました。
- ☆ 一つの専門分野における新しい知見、新鮮な学説を、他の方面の専門家に興味深く読んでいただくことを目標の一つとしております。
- ☆ 研究者、技術者の交流の場としても活用されれば幸いです。

### 主 要 目 次

#### 創 刊 号

- 創刊のことば……………住木論介
- 酵素の活性中心……………船津 勝
- ヌクレオチド類の生産をめぐる諸問題……………緒方浩一
- 工場廃水と漁業……………新田忠雄

#### ◀今日の話題▶

林産、生物化学、栄養化学、  
農薬の諸分野の今日の問題点

- [技術]食品の凍結乾燥……………太田勇夫
- [講座]機器分析のためのエレクトロニクス……………古賀正三
- ◀研究所紹介▶京大食研
- ◇学界だより ◇海外だより
- ◇<窓> ◇私の提案 ◇談話室

#### 第 2 号

- 発酵工業の新しい可能性……………坂口謹一郎
- タンパク生合成研究の現段階……………丸尾文治
- 日本の石油化学工業……………林雄二郎
- ◀座談会▶20世紀後半の農業技術……………東畑精一、河田党、住木論介、戸刈義次

#### ◀今日の話題▶

医薬、畜産、飼料、土壌肥料の諸分野の今日の問題点

- [技術]濾過……………佐藤敬夫
- [講座]ガスクロマト……………野口 駿
- ◀研究所紹介▶放医研
- ◇学界の動き ◇海外だよりなど

## 自然科学書

### 抗生物質

東大名譽教授 住木論介著  
(上) B5判・890頁 4000円  
(下) B5判・1150頁 6000円

### 養栄化学

東大教授 神立 誠著  
A5判・200頁 280円

### 化学通論

前東大教授 白井俊明著  
A5判・250頁 360円

### 無機化学

東大助教授 吉岡甲子郎著  
A5判・180頁 360円

### 有機化学

東大教授 大木道則著  
A5判・280頁 500円

### 化学概論 全

東大助教授 清水 恒著  
A5判・680頁 980円

### 有機化学実験

東大名譽教授 漆原義之編  
A5判・270頁 400円

### 医学における統計的推理

D. メインランド著  
増山元三郎監修  
柏木 力・高橋暁正訳  
A5判・210頁 450円

### 医学・生物学のための推計学

鳥居敏雄、高橋暁正、土肥一郎  
A5判・420頁 750円

### —Oxford大学と提携—

Oxford 大学出版部の書籍は、今後本会を通じて配給することになりました。なお本会展示室では、Oxford 大学をはじめ、世界各国の大学出版部の書籍を常時展示しております。

東京都本郷局私書函19

## 東京大学出版会

振替 東京 59964  
電話 (811) 8814